

アメリカン・ボード宣教師文書

—同志社女学校女性宣教師を中心として—

〈スタークウェザー書簡一訳および註一〉(4)

日	比	恵	子	監
矢	吹	世	紀	代
秋	山	恭	子	
大	熊	文	子	
柿	本	真	代	

書簡翻訳続き

〈79〉【矢吹世紀代 訳】

日本の京都にて、1878年12月20日、アレン夫人¹宛
 拝啓

ウイルソンさんに宛てたあなた様からのお手紙を目の前にしております。彼女には京都在留の許可がまだ下りていませんし、南の方の岡山²で宣教師の就任要請を受けており、そちらへ行くことを真剣に考えているようです。私は、頂戴しましたご親切なお便りへの返事を書いて欲しいと、彼女から頼まれています。子供たちを集め、楽しませておられるご様子、目に浮かびます。もっと詳しいお便りを差し上げる事が出来たらいいのですが、時間も無く、なかなかペンが進みません。

私たちの学校では今日の午後に試験が終了したばかりで、目まぐるしい忙しさです。私は冬休みを心待ちにしておりますが、と言っても、きっといつものようにあまり休めないことでしょう。本国の少女たちは京都の学校の少

女たちにきっと共感できるでしょう。生徒たちは試験にひどくびくびくしておりましたから。これは、生徒たちが初めて体験する公開試験となりました。中には、2～3人の生徒しかいないクラスもありましたので、50人以上もの英学校の生徒や多くの宣教師に注視されながら試験を受けることには、[生徒たちには] 耐え難いものがありました。

日本の少女や女性は自由がなく奴隷³のような扱いをされてきたこともあり、自信が持てないでいるのです。そして長年の習慣によって、女性たちは、とても遠慮がちに振る舞う態度が身につけてしまったのです。私はみんなをかわいそうだと思ってきました。しかしながら、女生徒たちはちゃんとやりましたし、それは将来の彼女たちのためにも良き教訓となることでしょう。日本はこれまでの多くの古いしきたりを捨てて新しい慣習を取り入れようとしているところですが、それは時には興味深く、また時には辛いことも多くあります。

この女学校の中で、1人の女生徒に学費を援助すること⁴に関心を寄せておられるあなた様の要望に、私は心から共感いたします。その方法だと簡単により多くのお金を集められることはわかってはいるのです。しかしご存知と思いますが、ボードは一般的な基金への自由な寄付を募ることを提唱し、集まったお金を理にかなっていると思われるように配分しているのです。そして、ボードのやり方が賢明だということは、私がここでまさに身を以て経験してわかったのです。私たちの仕事が新しい局面に来ている事に驚きを隠せません。今では、自分で学費を出してでも通いたいという志願者が、私たちが受け入れられると定められた生徒数よりも、もっと多くなってきています。受け入れ生徒の人数制限⁵をすぐにでも撤廃するよう頼んでくる人もいます。そういう人たちを今、10人から12人は思いつきます。私たちが細々と学校事業を始め、その後どうなっていくのか誰にもわからなかった頃には、もちろん、お金が払えて身分の高い人々は、敢えて危険を冒してまで娘を新しい試みにさらすようなことはしようとしませんでした。特に、女子を教育

する習慣などなく、また女子教育の必要性などを感じることはなかったのです。ここ女学校を給費生でスタートさせ、私たち宣教師が何をしようとしているのかを生徒たちを通じて示すことは、正しかったと信じております。

ようやく今その思いが通じ、私が初めに信じたとおりに、私たちの学校に生徒を通わせたいという多くの人が見受けられるようになっております。学費を自分で工面でできず私たちが援助の手を差し伸べた人の中に、大変優秀な生徒が何名かおります。

ここで私の日本語教師であった若者の許嫁⁶について話をさせてください。この婚約は、彼がキリストについて何も聞いたことがない頃に、お互いの親の意思でなされたものでした。彼女が12～3歳の時に、若者はクリスチャンになりました。今は、まもなく教会が設立されるだろうという場所で、立派に働いております。そこでの興味深い仕事やその若者を神が導かれた様子については、ちょっとした面白い本を1冊書く事ができるくらいです。彼はキリストの仕事に全人生を捧げようとしています。将来の崇高な目的があるのに、イエスについては何も知らない女性との結婚の見込みしかありませんでした。相手は、一般的な習慣により12歳くらいで学校を終え、その後は家で縫い物や炊事をしていた女性でした。私たちは、未来の妻に仕事の伴侶を求めているこの若者に深く同情しました。彼の家族は昔は上流階級の身分でしたが、何千人もの人々と同様、その身分を失ってから貧乏になっていました。親戚中が彼の信仰に反対し、それ以上に、たとえそのためのお金を工面でできたとしても娘を学校に送る気など毛頭ありませんでした。「自分の娘を学校にやる親なんていませんよ。ましてや教会に行かせることなんてあり得ません」と言っていたのです。若者は時間をかけて熱心に両親に働きかけ、私が英学校と女学校でこの2人を支えるために、私の〔日本語の〕先生としての十分な報酬を支払うと約束をしてから、許婚の女学校入学の許可を得ることに成功しました。

この女性が実際ここへやって来て、とても魅力のある淑女であることがわ

かりましたが、イエスについては全く無知な状態でした。彼女は私にいろいろ手助けしてくれることで感謝の気持ちを表してくれました。そして、1年半たった今、真のクリスチャンになったのです（かなり前から信者になったと思われます）。礼拝で彼女が上手にオルガンを弾いてくれることが大きな助けとなっていますし、どこにいてもいい影響を与えてくれるのです。この生徒一人だけの話についてももっともっと書きたいところですが、とにかく彼女の場合は、特例の援助の価値を証明してくれるものになっているのです。そして、より恵まれた土地である本国と同様にここ京都においても、貧しい生徒たちのためのちょっとした基金があっただけだと考えております。差し伸べられた援助に対してお返しをしていると感じられるよう、十分な仕事の間を与えながら、です。他にも例はありますが、彼女への援助のケースが、学内でとりわけ輝きを放っているところなのです。しかしながら、私たちのボードの方針もあって、本国の親友たちは、少し想像力を働かせて、自分たちの出したお金が1人だけの為ではなく多くの人の役に立っていると思いつき、いよいよ方針に従ってお金を出す必要があるかのようです。私は何か他の方法でこの問題を解決しなければなりません。ほぼ全員の生徒が本国の団体から援助を受けている学校が日本にあり、それぞれの団体は、援助している人に関する報告を毎月受け取ることを望んでいます。この仕事に対応するだけでも1人の宣教師がかかりきりになる必要があるということが分かっています。

土曜 [12月21日] の午前、冬休みで、ほとんどの女生徒が休暇で帰省し、私たちはもう寂しく感じています。ここには3名の通学生と17名の寄宿生⁷、合わせて20名の生徒がおります。本国の若い皆さんに、雑誌や新聞から写真を切り抜いて、こちらの生徒に送っていただくことはできないでしょうか？ そうすれば、生徒たちは写真を可愛くスクラップブックにして売ることができますので。これによって彼女たちは臨時収入を得られますし、私の仕事台には役に立つ本を保管しておくこともできます。そういった切り抜いた写真

は、他の学校に送ってきていますし、私たちの金曜日用の本も福音書の挿絵を使って作られました。日本の絵はどれも出来がよくないからです。次の学期から授業料を2ドルから2ドル50セントに値上げしたいと考えておりますが、それで寮費や授業料は賄えるはずです。飾り文字の聖句をいただきましたので、学校用に額縁に入れたいと思っております。学校には白地図がどうしても必要です。そうした物を買うために、売れるものは何でも売ってお金を調達することは、女生徒たちにとって大きな喜びとなることでしょう。

世界旅行中の一行が、寄付金を置いて行ってくれました。家の中にもりがちな生徒のために、そのお金の一部をローンテニス場を備えるのに使いました。本国では、子供たちに遊ぶことを教えねばならないとか、遊ぶのは楽しいと辛抱強く言い続ける必要があると誰が思うでしょうか。しかし、ここ〔日本〕では、それは私たちが地道に教える必要があることなのです。昨年、英学校の生徒たちはよく病気になりました。今年、先生たちからもっと体を動かすようにと何度も促された後、やっと運動の必要性に気づき、すぐに健康を取り戻しました。また、生徒同士、健康状態の悪い人にはそれぞれ罰金を課したところ、今学期は病気にかかった生徒の話は耳にすることはありませんでした。女生徒たちも上手くなだめて運動の楽しさをわからせるには、忍耐と丁寧な説得がいましたが、何よりお医者様の往診代の節約となるのです。そして伝道など将来の働きのための準備にもなるのです⁸。

女学校でいちばん年下の11歳の少女が故郷の両親と祖母宛に「早くイエス様を信仰してください」と手紙を書き、グールディと新島夫人が彼女の故郷へ行った⁹と時の話を繰り返しました。その時、多くの人が熱心に耳を傾け、宣教師の言葉に感銘を受けたのです。300名ほどの聴衆が集まりました。物珍しさで集まった人が多かったのも確かですが、心から聴きにきた人も多かったのです。

先週の土曜日、生徒たちは散歩に出かけ、多くの人が葉の茂った木の下で偶像に祈っている姿を目にしました。自分たちも以前、試験前になるとここ

へ来て同じように困ったときの神頼みをしたと言っていました。今は、イエス様に対して祈ることができるようになったと、幸せそうでした。皆は「いつくしみ深き」を歌うのが大好きです。この生徒たちと文通したいと思う少女はいませんか？

またのお便りをお待ちしております。この世でお会いすることはないとしても、それは、やがて顔と顔を合わせてお会いすることになる、私たちが崇拜する共通の救い主の御用のためなのです。そこで私たちが共にこの世の成果を携えて会えますように。

敬具

A・J・スタークウェザー

- 1 ジュリア・ウイルソンの知人と思われる。スタークウェザーにとって一面識もない女性のようなのであるが、ウイルソンに依頼されて代わりに返事を書いている。
- 2 岡山ミッション設立に関しては、後出〈80〉の註3参照。
- 3 儒教の道德観に基づいて生活を律していた日本の女性の姿は、スタークウェザーたちには、このように映ったのであろう。だからこそ、日本の女性たちを奴隷状態から解放しなければと、一層燃えたのであろう。
- 4 生徒を特定して援助するやり方。スタークウェザーが続いて書いているように、ボードではこの方式の募金は受け付けていなかった。しかし、特定の生徒のために祈ることは、よく行われたようである。
- 5 スタークウェザー書簡〈78〉註1参照。
- 6 本間重慶の許婚、春のケースは、「トレーニング・スクール [同志社英学校] の卒業生の help-meet (伴侶) を育てたい」との、女学校に対するデイヴィスらの願いが実現された第1号と言えよう。
- 7 1878年12月20日の時点で、寄宿生14名の制限はまだ外されていなかった。
- 8 同志社女学校を含む明治期におけるキリスト教主義女学校の体操科目については、秦芳江「同志社女子部の正課体育と課外体育の歴史 (明治篇)」(『同志社女子大学学術研究年報』第35巻、1984年、18-42頁)と「明治期におけるキリスト教主義女子体育について」(『同志社女子大学学術研究年報』第15巻、1964年、290-308頁)に詳しい。
- 9 1878年12月2日、新島八重は大阪の女性宣教師グールドィと共に岸和田へ行き、昼夜2回にわたって説教を行った。

〈80〉【秋山恭子 訳】

日本の京都にて、1879年1月6日、チャイルド宛

拝啓

あなた様から10月31日付のお便りをいただき、心から感謝しています。いつになくそれは遅れて届きましたが、冬休み中にお便りを書くことに励めたらいいと思いましたが、最終的には大阪に1週間滞在しましたので、毎年恒例の予算を組み立て、来年度の計画を様々に練り上げた後では、お便りを書く機会はほとんどなくなってしまいました。1月4日に開かれたミッション会議¹の議決はいずれお分りになるでしょうが、その時の合言葉は「節約」でした。これまで女学校に課せられていた寄宿生14名を限度とする制限を解くということが、投票により満場一致で決議されました。少なくとも12人の私費生が入学を希望していることがわかっておりました。5人の生徒を教えるのも50人の生徒を教えるのも経費は同じです。生徒数が少なくなるにつれて、その生活費は割高になるのです。私費生の入学を許可する時機がきたことが賛同されたのでした。

ご存知のように、日本では、今この時期【お正月】は1年のうちで一番の祝祭日です。子どもたちは小さい子も大きい子も、戸外で一緒に元気よく「遊び」、とても礼儀正しく楽しそうに年始の挨拶を交わしています。この時期から、凧揚げ大会も始まります。店先には沢山の凧が溢れ、凧がこの大都市の上空あらゆる方向に舞い上がる様子が見られます。

たった今、今年最初の「祈祷週間」の集会から戻りました。集会は少し離れた第一公会²で開催されました。全てのクリスチャンが一同に集い、今週中この同じ場所で祈りを捧げることになっています。活気ある雰囲気はその場に広がり、心を込めた祈りが途切れることなく次々と続きました。

多くのクリスチャン学生が授業を受けておりますので、夕方6時から7時までの祈祷会の時間帯が変更されました。なんとという祈りの帯が広く世界中を取り囲んでいることでしょうか。学校は明日から通常の授業が始まります。

今日、生徒たちが帰省先から戻ったとき、元氣そうでやる気がはっきりと表れていて、嬉しくなりました。著しい進歩がほとんど至るところに見られません。

岡山³で伝道の仕事が順調に始まることはご存じのことと思います。ウィルソンの名前もそこへ行く許可を申請している方々の中に含まれています。神様のなさることは、私たち人間のやり方とは本当に違います⁴。ここ京都に留まるための2人の姉妹たちの許可がこんなに長引くとはだれも全く予想もしませんでした。私は日本人教師⁵とだけで、全力を尽くして頑張っています。

今夜の祈禱会では、体調を崩していたラーネッド夫人が快復されたので、私たちは神様に心からの感謝の祈禱を捧げました。ご夫妻はここ京都ホームに住んで下さり、お二人から心のこもった支援や慰めを頂いております。夫人は教えることには携わっておられませんが、生徒が清掃や整頓をする監督をして下さり、また運動の指導もして下さいます。生徒全員の健康状態は非常に良好です。

今しがた、カラカラと下駄の音と共に「ただいま」という楽しそうな声が聞こえて、2人の少女が岸和田から帰宅したのだとわかります。岸和田は、若い大名、岡部〔長職〕さんの故郷で、彼の要請を受けて新島氏が伝道に出かけて、大勢の聴衆を集めた場所です。新島夫人とグールディも、最近、岸和田伝道に出かけたことはお聞き及びのことでしょう。大勢の女性たちが大変熱心に聴きました。私たちは、新島ご夫妻に心から敬愛の念を抱いております。夫人のお母さんは、昼間は私共と一緒に居て下さり、生徒たちの世話の手伝いをされます。優しいお顔立ちは気持ちを和ませてくれ、彼女がいて下さるだけで皆に喜びを与えてくれますので、とても感謝しています。

新しい年の恵みが目前に近づいていると信じております。神様はつらい時でさえも、絶えず見守っていて下さいますから。

ああ、[皆様のご寄付により完成した] 新校舎の写真をお送りすべきと考

えていましたが、ここに移って来て以来、全員が一同に揃う機会は1度もありませんでした。なかには、庭木の植え込みやつるが成長するまで待つほうが良いと考える人もいます。今は、無駄を省いて切り詰めることに努めておりますので、もう少し先延ばしにするかもしれません。

今日の夕方、とても優秀な若い男性が挨拶に来てくれました。その若者は、冬休みに伝道のため出かけていた京都の西の海岸地方から戻ったところでしたが、時には4フィート（約120センチ）も積もる深い雪道を苦労して延々と歩きました。気候温暖な南国の出身なので、今までにそのような大雪の景色を見たことはありませんでした。この小さい国、日本を旅することは、まだ始まったばかりですが、京都と神戸の間を走る汽車にはいつも大勢の人が群れをなして乗車しています。出掛ける時にはいつも、トラクトをたくさん持っていき配ることにしています。

どうぞ皆様によろしくお伝えください

敬具

アリス・J・スタークウェザー

- 1 この年の特別会議は、1月3日であった。日本ミッション特別会議議事録の記録（1879年1月3日）には、女学校の生徒数に関する全ての規制が外されたと記録されている。
- 2 第一公会は今出川通りに面したラーネッド宅で始まり、一時的に夫妻が女学校に移った後も、その家で開かれていた。
- 3 岡山ミッションは1879年1月に開かれた。福岡、広島、岡山を視察した後、受入れ側の熱意、受入れ態勢などから、岡山が最適地と判断された。3人の男性宣教師（J・C・ベリー、O・ケリー、J・H・ペティー）に加えて、ジュリア・ウィルソンがこのステーションに配属された。
- 4 スタークウェザーは、旧約聖書「イザヤ書」第55章8節“わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる”を踏まえて書いている。
- 5 原文は **Japanese teachers** と、複数形になっている。この時点での日本人教師とは、山本さく、新島八重の母娘、2人を指しているであろう。

《604》【大熊文子 訳】

マサチューセッツ州ボストンにて、1879年2月15日、スタークウェザー宛
 拝復

女学校に課せられていた、生徒の人数制限が全て取り除かれたとの事を、日本からの最近の知らせで知りました。今、どのくらいの出席者がおり、学校の見通しはどうかにかについて知りたいものです。おそらく、女学校の建物に寄付をし、その学校は自分たちのものだと感じているこちらの女性たちに、あなたは手紙を書いてくれるのでしょうか。それでもあなたが私に手紙をくれることが嬉しく、あなたの手紙すべてを彼女たちに回すことも出来るのです。あなたからの便りは、こちらの共通の関心事なのです。私は、あなたがラーネッド夫人や日本人教師以外に助けてもらっているとは聞いていません。

ウイルソンさんが岡山に派遣されるようですね。おそらくそれが今、考えられる中で最善なのでしょう。私としては、パーミリーさんとウイルソンさんがあなたを助けて共に働いてくれることを望んでいましたが。しかし私は予期せぬ障害や計画の変更にがっかりしないようになりました。お二人があなたを助けに来ることができないとすれば、それは彼女たちがほかの場所でもより必要とされているからです。あなたが1人でもその仕事をうまくやり遂げることができるようにと、神様が力を与えてくださるでしょう。

敬具

N・G・クラーク

《81》【大熊文子 訳】

日本の京都にて、1879年2月24日、チャイルド宛
 拝啓

私たちは今、ラーネッド教授が5年間京都に滞在できると認められた¹と聞き、非常にほっとしています。ただ、新島氏が東京へ行ってゴードン博士

の滞在許可をも確実にするようには助言されていなかったのは、残念なことでした。結果として出た問題が少しでも懸念されていたのなら、それはなされたでしょうに〔新島はゴードンのために東京へ行ったのでしょうけれども〕。私たちはゴードン一家が離れてしまったので、非常に寂しく思っています。私個人としては、一家が京都にいないことを納得するつもりはありません。ゴードン博士は同志社英学校に関わっており、英学校では、その学識やクリスチャンとしての立派な人格上の感化がとても必要とされているのです。私は、ゴードン一家が京都に住むようになることが今なお主のご意思であると望み、祈っています。

ラーネッド教授の家の契約が整い、今日建築に取り掛かりました。もちろん一家が秋までには入居できるということはないでしょう。それが神の御心ならば。その時には私は1人きりで残されるのだと考えることには耐えられません。ラーネッド夫人は、私にとっては大きな慰めであり助けでした。もちろん夫人は自分の健康状態を考慮することを最優先しなければならず、また「直接の」仕事を助けてくれていたわけではないのですが。

女学校の生徒たちは、勉学面で著しい進歩をみせており、高い熱意を表してくれることは、非常に励みとなります。というのは、この生徒たちが最初に来たとき、やる気は十分ありましたが、彼女たちの頭の中には、勉強に注意を集中させようというような考えは全くと言っていいほどなかったからです。女学校には、上級クラスの3人²がいます。彼女たちは化学、修辞学、幾何学などを勉強しています。他には、算数、地理、文法を勉強していますが、算数以外〔地理と文法〕は全て英語で学んでいます。文法は十分勉強が進んでおり、作文や〔英文構成要素の〕分析を楽しんでいます。

残りの生徒は聖書注解を読みたいという志をもって、英語で「第一読本」を読むのに全力を注いでいます。生徒たちはみな読本を使って書くことを学び、簡単にきれいな文字が書けるようになるのに驚いています。早くから絶えず自分たちの難しい文字〔漢字〕に目が慣らされているので、驚くにはあ

たらないのかもしれませんが。学校が始まってから、教師陣の戦力はとても限られていて、作文を教えるのに費やせる時間がほとんどなく、今年はゼロです。でも生徒たちは教わっていないのに、いつのまにか覚えるのです。1人の既婚の女性には驚かされました。その女性は、数年前、大津の近隣の学校で教育を受けたことがあるのですが、製版のような美しい文を書くのです。女生徒たちは模倣ということに確かな才能があります。市中の立派な漢文の教師が毎日午後2時間、妻とともに日本語の読み書きを教えています。さらに進むと、歴史書や哲学書を日本語で読みますが、日本語というのは主として中国語に由来する言葉です。

年少の生徒たちが、自分の意志で毎晩お茶の後に祈祷会を開いています。彼女たちが嬉しそうに大声で歌った後、静かに祈りの時間が続くのを目の当たりにすると勇気づけられます。

[こうした勉強が] 日課になっても、女学校ではキリスト教に対する関心が薄れているようには思えません。私たちは毎朝7時45分～8時45分の1時間、「ヨハネによる福音書」を勉強しています。その理解力やもっと知りたいという元気一杯の熱心さが現れるので、私は本当に励まされます。

ご安心ください。集会室（西の談話室）の壁に皆さまが送ってくださった美しい「100周年記念の芳名録」³を飾っていますので、手紙を書く時間はありませんが、その何倍も多く皆さま方のことを私たちが思い起こしております。

京都府は、「英学校」で聖書を教えることをまだ厳密には認めていませんが、宣教師の家では好きなようにと許してくれています。そのおかげで、さらに居心地のよい所で[聖書の勉強ができるし]、聖書は20フィート（約6メートル）先で教えられるということで、学校が痛手を被ることはないと考えています。

カリフォルニアのリチャーズ夫人によって送られてきたオルガン⁴は、讚美歌を歌うのに非常に役立っております。生徒たちの声が止めどもなく流れ

る最も豊かで最も古い「福音の歌」の中に一体となっていくのをお聞きになれば、私と同じように、あなた様もお喜びになられることでしょう。芳名録には「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」「ヨハネによる福音書」第3章16節」と日本語で書かれているのを覚えておられることでしょう。近くで見る人は、壁の高い位置にあるその言葉を読むことができません。でも私たちは、魅力的な赤と黒で書かれた漢字交じりの日本語の聖句を家中に掛けていますので、もっと大きな文字で書かれたその一節を選んで、芳名録の下に掛けました。わずかなお金で部屋の飾りとなっています。しかし一番良いのは、輝くような目が頻繁にその聖句を見つめている光景です。

どれほどよく思い出すことでしょうか。私自身があの尊い救い主を見出した後、少なくともその素晴らしい「よき知らせ」を「地球上すべての人に聞こえるように大声で発したい」⁵と願ったことを。その聖句は必ずや初めて聞く人の心を溶かすはずだと、私には思えました。しかし驚いたことに、それどころか、ぼかんとした無表情な反応ばかりです。私たちは、キリスト教の正しい理解の基礎を築くために、降り出しに戻って、知らない言葉〔日本語〕で、鋭い感性を呼び醒ますことから始めねばなりません。

ありがたいことに、私たちの信仰を試す厚い雲が消えつつあります。しかし、私に「孤独な時間」が訪れるのは、そんな岩のような困難に直面する時なのです。次に、自分自身の弱さとか、その仕事に相応しくないとの意識が圧倒せんばかりに迫り、心に叫ばせるのです。「私のためにお祈りください！」と。

本当に「宣教の仕事の12の柱」⁶の第1部の筆者は十分に報われるでしょう。「祈り」によってのみ降りる聖霊が、確かにそれをもたらしたに違いありません。まれな恩恵により、私は非常に注意を払ってその号〔第1の柱〕を読みました。私の心が「アーメン、アーメン！」と何度も応えているとき、思わず口元に浮かんだ「祈って下さい、祈って下さい、そうです。祈って下さ

い」ということばで、世界のこちら側からもその心を何度も反響させたいと願っていました。その報いは確かなものです。それ以外、あなた方の〔祈りの〕労働に神の祝福があるという保証はないのです。女生徒たちにアメリカではどれほど祈って下さっているかを伝えると、信仰心の証が彼女らの表情をととても明るくし、言い表せないような、深い平安が女生徒たちを包み込むのです。今まで何度この真実が証されたことでしょうか。

この号〔第1の柱〕を再読すれば、どれほど多くの人が勇気づけられ祝福され、そして来る年もずっと聖書のそばにその頁を開いて置いておくことでしょう。その提案通りにすれば、個々の魂に多くの祝福をもたらすばかりか、外国の地にも尊い果実を実らすのだということが、いずれはわかるのです。私たちの許から家に呼び戻され、今は考えるだけでもぞっとするような誘惑の只中にある生徒の名前を一人一人繰り返して祈ることは、私にとって豊かな慰めなのです。この生徒たちを祈りの対象（重荷）とできることに感謝しておりますし、そのお返しに何にも変えられぬ恵みを受けております。

しばらく前に、大事な女生徒が病気の母親の許に呼び戻されました。今日便りが届き、母親の状態が良くなっていること、そして私たちのもとへ戻ることを望んでおり、戻ることが許されるよう祈ってほしいと書いてありました。彼女は毎日、学校での幸せな境遇を思い、「でも自分の今の状態は、悲しみばかりだわ」と思っています。

多くの祈りが、いま彦根で誠実に働いている一人の人のためにも捧げられました。その場所を、『ミッシヨナリー・ヘラルド』の見事な地図⁷上に、他の場所同様ははっきりと印をつけて下さっていますね。「私のために祈ってください」と何度も彼〔本間重慶〕は手紙を書いてきます。「勇気を出しなさい。私たちは毎日あなたのことを考えています。あなたのために祈っています！」と言うと、夫妻〔重慶と春〕が心を強くすると同じように、海を越えて心からの同じ言葉が届くと、私たちは尽きることのない勇気で励まされるのです。「ありきたりです。仕事について何か新しいことを教えてください！」

とは誰にも言わせないでください。日本にいる私たちに、信仰の炎を明るく燃え続けさせるために油が秘かに注がれるように思える祈りがなくても、学校は明日も続くのだと、どうしてわかるでしょうか。

昨秋女学校へ入学を希望したのに入学できなかった多くの女生徒たちは、寒さ厳しい冬から春休みまでの期間、他の仕事で拘束されてしまいます。しかしながら1月に入学した3名は、立派にやっています。彼女たちには、本国の女生徒たちのような、ここでは例外的な活力があります。実際、彼女たちは級友から「やかましい」と思われています。しかし私はその点は我慢できます。というのは、大人しくさせられることはできますから。ところがあの、礼儀正しく眠っているような無感動の心と言ったらいいでしょうか、それを目覚めさせることは非常に難しいのです。日本の女性たちは2000年もの間、自己卑下を強いられた結果、実に多くの女性がそうなのです。

この3名のうちの1人、10歳の生徒⁸の写真を同封します。年齢の割には大柄な少女です。彼女はとても可愛らしく、彦根の医師の娘です。どなたがこの生徒を祈りの特別な対象として下さるでしょうか。彼女の名前は、お茂さんです。

皆さまに祈っていただきたいもう1人の少女⁹は、お初さん、19歳です。昨年9月に入学したばかりです。弟¹⁰はまれにみる才能あるクリスチャンです。彼女はとても学問好きですが、キリスト教に対してはまだ心を開いていないように思えると、彼女の一番親しい友人¹¹で熱心なクリスチャンが言っています。祈祷会でお初さんが選ぶ聖句は、英語でも日本語でも、最も豊かで最高のものなのです。ただ彼女が理解しがたい例です。彼女が一番身近な友人たちの非常に感動的な呼びかけに、これまでずっと反抗してきたことを知っているのです。私が日本語で親しく面談するためには祈りが不可欠です。私もまたそれを祈り求めながら、愛情をもって彼女を自分のところへ引きつけようと努めています。

本国にいる多くの女性たちは、この女学校の特定の生徒たちに与える奨学

金がないことにながかりしていることでしょう。しかし、同じ位に、あるいはそれ以上に皆さまの興味に火をともし維持する機会があります。つまり私が責任をもって皆さまに紹介する少女たちの中から何人かのために祈りじつと見守っていく機会です。思いやりのある神の御心は、ほとんどは学費援助を必要としない生徒を私たちのもとに送りこんで下さいます。しかし、一人ひとりがどれほどひどく皆さまの祈りを必要としていることでしょうか。

あの「モーニング・スター号」¹²に使われた私の献金「釘」のことを考えると、今私の胸は高鳴ります。子どもの時以来、あれは「私の船」だという気持ちは少しも変わりません。その船は遭難しましたが、私たちが注ぎ込んだ祈りと熱意が無駄だったとは誰も思っておりません。しかし、今お願いしている投資〔皆のために祈ること〕はより確かなもので、損失の可能性がひとつかけらもありません。ここにいる生徒一人ずつのために毎日祈りを捧げると約束して下さったそれぞれの方々へ、お望みなら何枚でも写真をお送りしても、ボードが反対なさることはないでしょう。

ここ日本に溢れている不信や懐疑論は想像を絶するものがあります。京都で最有力の宗派の著名な僧侶¹³で、イギリスで10年過ごした人なのですが、稀に見る蔵書があり、また広い見方のできる人がいます。その人が最近、外国人のクリスチャンに、キリスト教は日本の多くの場所で拠点を見出しはするだろうが、他の点では成功しないと信じている、と言いました。「キリスト教の一番大きな敵は仏教でも神道でも儒教でもありません。外から入ってくる不信論なのです。」

新島氏は最近東京を訪ね、そこで墮落と不信を痛感したようです。最新の「輸入品」はどうやら文学と並んで、地理学者モース¹⁴の教えや日曜講義に見られるようです。私たちの大事な生徒たちは、このような狼の中へ子羊のように送り出されねばならないのです。

敬具

アリス・J・スタークウェザー

- 1 1879年3月15日でラーネットの滞在許可が切れるため、1月28日にその期間延長が申請されたが、府庁より異論が出された。新島は森有礼外務大輔に面会のため、急遽東上した。ラーネットの許可証は2月21日に下付された。これよりも早く、1878年10月30日に提出されたゴードンの京都在住許可がなかなか下りず、新島は森に手紙を書き、早急の許可要請した。ゴードンの許可証が下りたのは、6月26日である。ゴードン一家はそれまで大阪で過ごしていた。
- 2 徳富初子、山本ミネ子、伊勢美也子（横井みや）のことであろう。
- 3 ウーマンズ・ボードのアメリカ独立百周年記念募金に協力した女性と子どもたちの「芳名録」。
- 4 オルガン入手の一件については、スタークウェザー書簡〈74〉【*Asphodel* 45, pp.297-304】参照。オルガン輸送の手配をリチャーズ夫人が行ったのであろう。
- 5 Philip Doddridge 作詞（1717）、George Kingsley 作曲（1838）の讚美歌（全4連）の第1連 “Jesus, I love thy charming name,/ 'Tis music to mine ear;/ Fain would I sound it so loud/ That earth and heaven should hear.” への言及である。
- 6 “Twelve Pillars of Missionary Work, No.1: Prayer” 『女性のための生命と光』1879年1月号冒頭に掲載された所感文で、祈りの大切さを訴えている。筆者は、E. S. G. イニシャル名のみ。
- 7 『ミッシヨナリー・ヘラルド』1879年1月号の第1頁につけられた日本地図のこと。アメリカン・ボードのステーションのある都市（横浜、神戸、大阪、京都）には下線が施されている。
- 8 中嶋茂千代 彦根教会の中心人物であった医師、中嶋宗達の娘。同志社女学校を経て、東京音楽学校を卒業した。
- 9 徳富初子（1860-1935）熊本洋学校で、横井みやと共にジェーンズ夫人に学ぶ。同志社女学校卒業後、上京。婦人矯風会の仕事に携わる。1885年湯浅治郎（1850-1932）と結婚。
- 10 徳富猪一郎（蘇峰）（1863-1957）熊本洋学校に学び、同志社に移るが中退。13歳で新島襄より受洗。
- 11 横井みや 兄横井時雄と共に同志社に来た年（1877年）に、新島襄より受洗。
- 12 ミクロネシア・ミッションのために、サンフランシスコから年に1回、宣教師や彼らの必需品を運搬していた船の名前。『ミッシヨナリー・ヘラルド』1879年1月号によると、船の1代目は1856年に建造されたが、古くなって売却された。1866年建造の2代目は、1869年に難破。1870年に3代目が建造されることになったとき、子どもたちにも呼びかけて、この宣教師船のために、板1枚・釘1本・円材1本・縄1本寄付金を募った。スタークウェザーも釘数十本分の献金をした

ようであり、上掲誌1月号に掲載された「モーニング・スター号」絵入りの記事を見て、懐かしく思ったのであろう。

- 13 赤松連城 (1841-1919) 浄土真宗本願寺派の僧侶。島地黙雷 (1838-1911) らと共に教団の改革をはかり、1872年に仏教者として初めてイギリスに留学。後に、佛教大 (現龍谷大学) 総理、勸学などを歴任。
- 14 スタークウェザーは Morse the Geologist と書いているが、文脈から考えて、アメリカの動物学者であり進化論者であった Edward Sylvester Morse (1838-1925) のことであろう。E・S・モースは1877年来日。大森貝塚発見者として知られている。東京大学のお雇い教授を2年間勤めた。
地理学者のモース (Jedidiah Morse, 1761-1826) は、アメリカの会衆派牧師。「アメリカ地理学の父」として知られている。生没年からも、このモースとは考えにくい。スタークウェザーの勘違いと思われる。

〈82〉【柿本真代 訳】

日本の京都にて、1879年3月18日、[ウーマンズ・ボードの] 友人たち宛
拝啓

授業のほんの少しの合間に、これを書いています。私たちの学校は、今週の水曜・木曜・金曜に試験を行い、来週月曜日から1週間休みになります。生徒たちがみな誰もが熱心に試験の準備に取り組んでいる姿は喜ばしいかぎり、結果については少しも心配してはいません。

昨年のクリスマス以降、生徒たちの進歩は大変めざましいものです。あの時は、「公開試験」を予期して文字通り震え上がり、怖くて病気になりかけた生徒も中にはいました。彼女たちは見事に試験をやり遂げ、本物の経験をしたわけですから、これからは試験にびくびくするということはなくなるはずです。そのような状況で、授業の傍ら生徒たちを励ますことは、当然私にもかなりの負担だったと思ったださるなら、まさしくその通りです。

日本に導入されたすばらしい教育制度¹のことはご存知でしょうが、その課程で1～3年間学んだ年少の生徒はその利点を示し、とても進歩が速いのです。そのような教育を受けずに入学した生徒は、作法の形式を教えてもらえるとはばかり思っていて、何にでも集中させるように一番初めの所から教え

込まねばならないのです。

このような公立学校では、知事や高官が半年に1回、重要な試験の折には視察にやってきます。そして、生徒たちは一張羅を身につけて挑みます。どんなに小さい子どもの髪でも、まるで蠟細工のように結い上げられ、縮緬ちりめんに巻きつけ、きらびやかな造花かんざし〔簪〕が挿してあります。このようなときには、女の子たちははたいい白粉おしろいをつけます。つい先日このような行列に出会いましたが、みな知事のお気に入りの学校の若い女生徒で、京都御所で行われる毎年恒例の博覧会²の開会式に行くところでした。京都の中学校と女学校³で英語を教えているカリフォルニア出身のアーノルド夫妻⁴が彼女たちに付き添っていました。行列の中には、私たちの知り合いも少なからずいましたので、挨拶を交わしました。アーノルド夫人は修道院で教育を受けた人ですが、夫妻ともに熱心な信者でなく、カトリックの教えを述べ伝える気はなさそうに思います。夫妻はとても親切で、お互いの忙しさが許すかぎり、気持ちよく喜んで親しくしてくれます。2人は何ヶ月かの間で、私たちがここ京都で出会った唯一の外国人でした。キリスト教国から来た人々が、たとえ願ったとしても、クリスチャンとしての確固たる影響力を及ぼすことが認められないのをみると、とても心が痛むのです。

ある少女は、昨年受洗した神戸の女学校から京都の女学校へ転校させられました。父は遠く離れた自分の家で、どうやら隣の人の妬みのせいでキリスト教に不満を覚えはじめ、反キリスト教になりました。そして、自分の娘をこの異教徒の学校に入れて京都のクリスチャンと交際することを禁止したのです。彼女はクリスチャンのかつての友だちにたまたま会ったりすると、いつも泣いています。この少女には私たちの祈りが本当に必要なのです。

最近、見るのも痛ましい写真を目にしました。府の英学校の前校長が、帽子をかぶり、葉巻タバコを手に持って、テーブルの傍に立っている写真です。それには、明らかに前校長が5～6人の生徒にワインの調合を教えている様子が写っていました。日本人は彼のことを、「妻が子どもをイギリス人の大

阪教会へ洗礼を受けさせに行っている間、安息日に狩りに行った人]だと言っており、理解に苦しむようです。ああ！これほどまで不信心に浸ったこの国民のために、私たちはどれほど心を痛めていることでしょうか。そして私たちは、クリスチャンの国からの墮落した代表者が及ぼす悪魔のような影響力にも恥ずかしい思いをしなければならないのです。

同志社英学校の1人が、最近、ここから40マイル（約64キロ）離れた八日市の公立学校の先生の一団に英語を教えるために招かれました。その先生たちは英語を学ぶことを切望しているので、多くの人をキリスト教に導けるきっかけになればいいというのが八日市のクリスチャン集団の願いなのです。デイヴィス先生と新島氏は、最近その土地を訪れ、同志社英学校の卒業生によって伝道が行われた結果、真理への関心が持たれるようになったことを大いに喜ばれました。私たちは、近いうちに八日市に教会が設立されることを望んでいます。

デイヴィス先生と新島氏は、八日市に程近い彦根で、若い伝道者〔本間重慶〕の指揮のもと、人々が大変活き活きと讃美歌をうたっているのを見て驚いていました。とりわけ見事に歌われていたのは、彼が歌詞を翻訳し壁に掛けて「つとめいそしめ花のうえの」⁵です。ここでは、少なくとも20名の会員で教会が設立されることが望まれています。その期待で、アメリカへオルガン⁶を発注もしていました。

しかし、その地域出身で、しばらく東京にいてギリシア正教会の教えを受けた人が先ごろ郷里に帰ってきて、多くの友人や昔の近隣の人たちに少なからぬ影響を与えています。彼は、私たちの説教会にやって来て、聴衆の家までついて行き、キリスト教に対する偏見を持たせようと、彼らの耳に考えうる限りのことを吹き込んでいます。そういうわけで、すでに落伍者が出ており、その若い伝道師はひどく試練を受けています。その地で最初に興味を持ち、幅広いすばらしい影響力を持ち合わせていると見えた人が、懺悔を口にしたにも関わらず、最近道を踏み外してしまったのです。彼自身の心の貧し

さと弱さゆえに、周りのクリスチャンの働きをやめさせようという願望に対して、自分なりに十分な理由づけをしています。彼は年若い妻をひどく軽んじて離縁しようとしています。1年前にこの人に会った時のことをよく覚えています。彼の作法はとても礼儀正しく素直で、日本の女性が過去に置かれていた不幸な状況を嘆いていた、女性に敬意を表するその優しさをしばしば思い出します。人間とは哀れなものなんだなという意識が、私たちにはだんだん大きくなってきます。

毎週毎週、大変興味深い時を過ごしています。特に学校の授業に関して。同志社英学校の卒業生クラスが、卒業試験を見事に終えたのです。未来の収穫へと熱意を燃やしてはいますが、「ぼくたちには、あと2ヶ月半しか残されていない」と残念そうに言っています。卒業生たちの将来の仕事は、ほとんどが決まっているということで、今ほっとしています。神がこの決定を後押ししてくださるのだということには疑う余地もありません。彼らのうち3人⁷は、恐らく教師として同志社英学校に留まるでしょう。また、すぐれた精神と純粋な信仰をもったもう1人⁸は、同志社女学校で教師となってくれそうです。このクラスはすばらしい精神の団結があり、神のもとでそれぞれの将来の運命を仲間の意志に喜んで委ねようとしています。

その〔女学校に来てくれそうな〕人は熊本で信仰に目覚めて以来、最初からこの国の女性の地位向上に最も深く関心を寄せてきました。赴任が決まると、彼は直ちに東京の女子師範学校の校長宛に、女学校を巡回したい旨の手紙を書き、この夏に郷里に帰ったら、行ける限りすべての女学校を訪れるつもりでいます。彼は日本語に加え、英語と中国語〔漢文〕にも精通している生徒です。しばしばハンナ・モア⁹やメリー・ライオン¹⁰を引用して、より高潔な生涯を送ろうと葛藤する女性たちを勇気づけてくれます。モアとライオンの伝記は図書館にあります。

ここでの一瞬一瞬にかかる責任に気づくと、身震いしそうになることがよくあります。神の霊は、ずっと今も驚くほどに、とりわけこのクラスの青年

たちに降り注いでいます。彼らは熱心に真理を求め、伝道したいと切望しています。いまだ女性に関して野蛮な考えを捨てきれない日本の他の地域のクリスチャン男性とは大違いです。私は、過去の女性の高潔な行いについて描いた本が、もっとあればいいのと思うことがよくあります。(※この手紙を読んで、長い間、図書館や物置の一番上の棚に眠ってきた本でもいいから、そのような本を探す気になった人がいれば、大変助かります。最近の新しい切り抜きも、生徒の手に渡せば、何倍もの実を生み出せるはずです。)

今は、誰がこの国民を教育するのかを定めるべき時です。悪魔が働いており、たくさんの不信心な文学作品が日本の書店に山積みとなっています。

新島夫人は今日の午前中に、2人の少女を連れて、彼女たちの郷里、岸和田に行きました。そこは、今アメリカにいる元大名〔岡部長職〕の郷里で、新島氏が〔岡部氏から依頼されて〕行った所です。そこでは、夏休み以来、2週間ごとに説教が行われています。カトリック教徒が、新島氏の岸和田での仕事の後を追っています。[私たちの]日本人〔の仲間〕は、そのような行為を「無礼だ」と思っています。

この夏の休暇もまたパーミリーと一緒になくて、私はがっかりしています。彼女はまだ神戸にいますが、神戸滞在はそう長引かないで欲しいと思っています。ベリー医師¹¹、ケリー氏¹²、ペティー氏¹³のご一家と、ウイルソンの、随分遅れていた許可証が遂に発行され岡山に家を建てる許可もおりました。彼らの仕事がうまくいきますようにと、私たちはどれだけ真剣に祈っていることでしょうか。

たった今、去年の生徒の訪問を受けました。彼は今まで東京にいたのですが、日本からオーストラリアの博覧会¹⁴への物品を運ぶように委託を受けています。このオーストラリア行きが彼にとってよいものであって欲しいと願っていますが、彼の信仰に大きな誘惑になるのではないかと恐れてもいます。

ここにいるもう1人が私に教えてくれたことによると、彼の郷里——その郷里は、先ごろの反乱〔西南戦争〕の指導者、西郷〔隆盛〕の郷里でもある

のですが——では、定期的に説教会が行われ、今や聴衆は100人にのぼり、その多くは洗礼を申し込んでいますが、今はまだ「修練」¹⁵中だということです。メソジスト教会のこの規則[すぐには洗礼を受けさせないこと]はすばらしいことだと、異教徒の間で仕事をしようとする多くの人が認めるどころです。

3月24日：グールディとツルー夫人¹⁶は東京から人力車で350マイル(約560キロ)を旅してきて、先週の土曜日に到着しました。旅で疲れ切ってはいますが、道中を楽しんできたようです。

昨日の日曜日[23日]、「あなたがたは神の神殿である」¹⁷という聖句からの、身に染みる説教を聞きました。その考えは日本のクリスチャンに、とても強い印象を与えます。夕方には、その同じ才能ある若い説教者が「聖書の中の女性たち」の講習を始めました。もちろん「エバ」が最初の主題でした。深い確信に満ちた話者の心から自由にあふれ出る、雄弁で人を感動させる言葉に、大勢の女性たちが熱心に耳を傾けていました。

生徒の中には、第一公会の会員である年上の女性と共に、町の中心にある第三公会の安息日の夕礼拝に定期的に通っている人も1人います。彼女は昨晚、熱心に聞きに来るたくさんのお子さんたち感激して戻ってきました。子どもたちは「唯一神」しかないのだと聞いてとても驚き、そして喜んでいました。皆、前から来て話を聞きたいと思っていたのが、聞きに行ったら「殺されるぞ!」と多くの人に言われていたそうです。この若い助手は信者である町医者のお嬢で、最近同志社女学校に寄宿生として入学しました。穏やかで熱心な人で、至るところによい結果がでています。

敬具

アリス・J・スタークウェザー

- 1 1872(明治5)年9月に頒布された学制およびそれに伴って京都市内の小学校に付設された市中女紅場の制度を指していると思われる。

- 2 第8回京都博覧会（1879年3月15日～6月22日の100日間）。京都博覧会は、1872（明治5）年に第1回が西本願寺、建仁寺、知恩院の3カ所で行われ、以降会場は変更しながら、連年開催された。
- 3 1872年、京都府は「新英学校及女紅場」を開設した。新英学校は男子の教育を担い、主として英学を教え、女紅場では英学と西洋女紅を教えた。1874年「英女学校及女紅場」と改称、女子のみの教育機関となり、男子は中学校（府立欧学舎の英学校）へ移った。1876年「京都女学校及女紅場」と改称、英学と和漢学を学ぶコースと小学校教師を養成するコースとに分かれた。
- 4 夫の Alexander S. Arnold (1839-?) は中学校に、妻の K. D. Arnold (1850-?) は京都女学校及女紅場に、1877年11月から1880年10月まで在任した。夫人は西洋女紅の教育に尽力した。
- 5 “Work, for the night is coming” 日本基督教団讃美歌委員会編『讃美歌』（日本基督教団出版局、1954）の368番。明治期には、「樵の歌」として大和田建樹、奥好義共編『明治唱歌 第二集』（中央堂、1888）の第4番に収録されている。
- 6 オルガン購入に関しては、スタークウェザー書簡〈244〉参照。
- 7 同志社英学校第1回卒業生15名は、全員、熊本バンド関係者であった。うち3名、山崎為徳、市原盛宏、森田久萬人は、英学校教師として残った。
- 8 宮川経輝のこと。女学校には更に1人、加藤勇次郎も着任した。
- 9 Hannah More (1745-1833) イギリスの宗教作家・教育家。ピューリタンの側に立って宗教的・道徳的テーマについて書いてだけでなく、実際面でも慈善家として活躍した。
- 10 Mary Lyon (1797-1849) アメリカの先駆的女子教育家で、マウント・ホリヨーク (Mount Holyoke Seminary) の創設者。アメリカン・ボードから派遣されて来日した女性宣教師の中には、この学校を卒業した人物が多い。
- 11 John Cutting Berry (1874-1936) 1872年アメリカン・ボードの宣教医として来日。神戸在任中は、監獄伝道に励んだ。1878年岡山に移り、岡山県立病院の顧問として医療と伝道に献身した。1883年京都に移り、同志社病院と京都看病婦学校創設に尽力した。
- 12 Otis Cary (II) (1851-1932) 1878年来日。岡山に赴任し、岡山教会設立に尽力した。1892年同志社へ招かれ、日本で初めて、社会学を教授した。
- 13 James Horace Pettee (1851-1920) 1877年来日。岡山ステーション開設と共に岡山へ赴任し、博愛事業などに携わった。
- 14 1880年10月から行われた、メルボルン万国博覧会だと考えられる。日本を含めた33カ国が参加している。
- 15 洗礼を受ける前に、信仰が確かかどうかを確認するための「修練」。メソジスト

派はもともと敬虔な信仰に基づき厳しい戒律に従って修道者の生活を重んじる派なので、特に修練に対しても、当てはめるべき規則を持っていた。

- 16 Maria T. True (1840-1896) アメリカ人宣教師。1865年 Albert True (?-1871) と結婚。1874年来日。原女学校・新栄女学校に関わり、女子学院創立の要となった。
- 17 新約聖書「コリントの信徒への手紙一」第3章16節。